

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000694		
法人名	社会福祉法人 普代福祉会		
事業所名	グループホーム とりい		
所在地	普代村第24地割字鳥居5地割1		
自己評価作成日	平成22年10月6日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000694&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成22年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お誕生食。(誕生者より好きな食べ物を聞き取りし、希望食として提供している。) ・自然豊かな環境とゆとりある生活空間。 ・他関連サービスとの連携。(同一敷地内に関連施設・事業所があり、連絡体制がとりやすい。)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域が一望出来る高台にあり、日の出とともに1日が始まる自然に恵まれた“グループホームとりい”は、地域において認知症ケアの拠点としての役割を担うという意識のもと、利用者が穏やかにその人らしく生き活きと暮らし続け、認知症周辺症状の緩和や改善を目指し、また職員がやりがいを感じるような環境作りに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価後、理念について目標達成計画に挙げ内部研修を実施し管理者、職員一緒に介護理念を構築する。	職員全員で取組んだ“あなたの想いを大切に”をメインに3行にまとめられた、事業所と職員の思いが具体的に伝わる理念が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう、外部と接触する機会を意図的に計画している。	事業所は集落から離れた高台に位置しており、町場のような地域とのつながりが期待出来ない状況があるが、そのような状況でも利用者が「地域」で暮らし続けるためできるだけ事業所以外の地域行事や、法人内の各施設と利用者の交流を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は行事参加型の運営推進会議を開催、行事参加後アンケートにてサービスを評価してもらっている。	隔月での会議開催で、事業所からの諸報告、意見交換などパターン化の傾向があり、今年度は事業所内行事の時に会議開催を試み、アンケートなどでの意見を集約している。	運営推進会議の持つ機能として、“情報提供”、“教育研修”、“地域連携調整”、“地域作り資源開発”、“評価機能”など考えられるが、当事業所の地理的条件などのこともあり全てを満たすことは困難と思われるが、一つでも多くの活用に向けた更なる工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターへは待機者情報や入居者の認定更新等の情報交換を行っている。	地域密着型サービスにおける、事業所指定、指導監督は市町村の役割になっているところから、事業所所在の行政機関とは、顔の見える、気軽に相談出来る、協力者としての関係づくりに向けた連携のあり方が考えられるので、多面的方向で工夫していくことが重要である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を確保しつつ自由な暮らしができるよう努めている。(入口ドアは自動ドアであるが利用者の使い勝手を考慮し手動で対応している。)	職員は身体拘束の内容とその弊害を認識の上で拘束は行われたい決意と、抑圧感のない暮らしの支援に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待防止関連の勉強会は実施していない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する勉強会は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、説明を行い同意(契約書・重要事項説明書など)を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族へのアンケート調査を実施し、意見や要望の把握に努めている。	毎年定期的なアンケート調査が行われているが、内容的にどの程度の意見の吸い上げが出来るか課題と事業所は感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例に開催するGH会議及び法人内部各部署から成る代表者会議等を通じて職員と懇談し、意見・要望等を聞き、運営に反映しようとしている。	管理者は、利用者の状況や実情を直接的に知っている現場の職員の意見を実務に活かしていくため職員との個人面談を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は高いとはいえず、職員個々の能力に応じた給料体制は採用していないので、不満のある職員があるかと思うが、職員自らの発案、計画実行する運営を基本としており、それに伴う時間外手当等は保障している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人を育てるには一朝一夕には行かず、日頃の仕事でOJT、OFFJT組み合わせで実施している。限られた人数の中でのことであり、多く研修の機会を設けようとはしているが、代替職員がいない時など断念せざるを得ない時もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北ブロックの会議、研修会等を通じての意見交換、また、近隣の同業者との意見交換等を通じて自分達のサービスを見直す機会としている。また、今年度は他事業所との合同行事も実施しており、職員のみならず利用者間の交流も図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の何気ない会話、自然な会話を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、近況報告したうえで家族からの要望等をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として「出来る事」「出来ない事」を明確に伝えるようにしている。必要に応じて関係機関との緒調整を支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに過ごす時間を持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠な家族には電話連絡するなどし、面会を促すなど本人との関わりを維持できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事には可能な範囲で参加し交流が保たれるよう支援している。また、本人の行きつけの美容院への対応するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	馴染みのものへの思い起こしや、記憶の呼び戻しなどのねらいで、地域行事の参加や見学などを取り入れている。また、本人がこれまで培ってきた人間関係や地域関係を把握し、行きつけのパーマ屋さんの利用や地域の海産物まつり等に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握は難しいが、一緒に協力して出来る事(ゴミ出しの手伝い等)をお互い支えあえるように助言・支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は特養ホームへの入所に伴う退所があったが、特養ホームに対しては、適切な情報提供(事前に家族より承諾を得て。)を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ担当職員がアセスメント・意向確認しその後カンファレンスにて情報を共有している。	家族との面談時に、個々の暮らし方の希望などを聞き取ったり、利用者一人ひとりについて計画作成時のアセスメントや毎日の状況から意向の把握に努めている。利用者の真の思いが伝わらない課題が残ると職員は考えているところもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話から把握するよう努めている。また、不明な点や把握しづらい点については家族の面会時に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当職員がアセスメントシートに記入し、ケアカンファレンスにて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回モニタリングとケアプラン(原案)についてケアカンファレンスにて検討。参加できない職員に関しては回覧し周知をはかっている。また、家族へはケアプランの説明を行い、同意・交付している。	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人家族の変化に応じて臨機応変に見直しの必要性を認識しているものの、本人の満足にどう近づけていけるかを課題としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った援助内容に関しては、支援経過とし記録し、モニタリングや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化したサービスには取り組んでいない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院受診に関しては、事業所が対応している。その他、かかりつけ医には家族対応を原則としているが都合がつかない場合には事業所で対応、受診結果については随時報告している。	病院受診は事業所での対応が多く、受診結果の詳細は家族との面談時に、その他は電話にて随時行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時には、併設している特養看護職員へ相談している。また、特養看護職員へは利用者の医療情報一覧を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と相談したうえで対応している。入院時医療機関へは必要な情報は提供しているが、日頃からの病院関係者との関係づくりはできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、ご家族へ重度化・看取り支援に関するアンケート(意向確認書)とっている。現在、重度化や看取りに関する体制は出来ていないが今後の方向性を検討していきたい。	前年度に、重度化、終末期のあり方について家族の意向確認はしているが、事業所としての方針が定まっていない状況での課題が残り、家族の意志確認には慎重を期している。	利用者の重度化対応とターミナルケアにおける事業所として困難なことで、“職員の精神的負担”、“重度者へのケアに適した介護環境を整えにくい”ということが一般的に課題として挙げられる。当事業所での重度化への対応としては、法人内に併設の特別養護老人ホームとの連携が必然的に考えられるが、ケース発生となると、本人や家族の混乱が予測されることから、事業所としての方針を早急に定め、改めて本人家族の意向確認を進められることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等は掲示してあるが、訓練は実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の総合避難訓練にてGH夜間の火災を想定し訓練を実施している。避難経路等は掲示し周知を図っている。また、職員の連絡網にてすぐに集る体制は出来ている。	今年は、法人全体での訓練2回、事業所独自で2回、それぞれ避難訓練を主体に行なっている。自主点検を習慣化し、備蓄品の検討もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度、一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保について内部研修を実施した。不十分な点はあるが、プライバシーや誇りを損ねない声掛けをこころ掛けている。	プライバシーの確保のため全職員で研修や朝礼時に具体的に確認し合っている。一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本であり、事業所としての内部研修の継続が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時等、自分の好みの服を準備していただいたり、自分の観たいテレビが観られるように、など普段の生活において自己決定していただけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合になりがちであるが、個々の過ごし方の把握に努め支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関心を示さなくなった方へも、馴染みの美容院のヘアクリームを使っていただくなどの支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲内で食事の準備、片付けを職員と一緒にしている。また、食べる事に楽しみをもっていただけるよう食事中食材を話題にするなどしている。	食事は、利用者の日々の暮らしの中の重要な位置付けにあるとの認識から、食材の話題、季節の食べ物、行事食の思い出話など、食事の楽しさが味わえるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を併設施設の栄養士に確認していただき、栄養士の栄養バランス等のアドバイスをいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年2回、協力歯科医院による、訪問歯科指導があり、個別の口腔ケアを実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動がいつもと違う時はタイミングを見てトイレ誘導を行っている。また、失敗の多い方へは定時のトイレ誘導や声掛けを行うとともに排泄チェック表に記入し、個々の排泄リズムやパターンの把握に努めている。	個々の排泄パターンを把握し定時トイレ誘導や声掛けをしスムーズな排泄につなげるよう支援している。トイレでの排泄が出来る暮らしは、生きる意欲や自信の回復、身体機能の向上につながる重要なこととの認識を持った支援の継続が期待される。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に繊維のある野菜を取り入れるようこころがけている。また、おやつ時の水補や散歩をとりいれた運動などに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を尊重し、気が進まない場合には入浴日を変更するなどして対応している。個々のペースでゆったり入浴できるよう個々に対応している。	利用者一人ひとりの意向を優先に、衣類の着脱、洗髪を手伝うなど、ゆっくりとくつろいで入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	談話室等に午睡する方もあり、個々のペースで休息している。また、夜間は安眠できるよう個人に応じた照明の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の医療情報を一覧表として掲示している。また、鎮静剤している方へは症状の変化を確認しながら服薬の支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を図る事も目的として毎日施設外周を散歩している。また、(本人の負担にならない範囲内で)家事手伝いを自分の役割とし生活に張りをもてるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイク時に希望があれば、自宅周辺や馴染みの場所をドライブコースにするなどし対応している。また、食材の買物時に利用者も一緒に行っていただき自分の買物もしてもらうなどできるだけ希望に沿った対応を心がけている。	年間行事計画や日常的な個別の外出支援の他に、本人の思いに添った特別な場所への対応もしながら、その人らしい暮らしを保つことに努めている。馴染みの場所や買物時に利用者も行けるよう地域の方々の協力も得ている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは、職員が預かり管理しているが、バスハイクなどで出掛けた際には本人にお金を渡し、買物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包や手紙が届いた際には、差出人へ電話連絡するなどし対応している。また、ハガキのやり取りが自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自ら散歩で摘んできた花を飾るなど、季節感を持てるように支援している。また、共有スペースではゆったり感を持てるようスペースの確保を心がけている。	全体にゆったりと余裕のある共用生活空間は、利用者自らの力でその人らしく過ごせる場となるような配慮が職員の感性と共に活かされ居心地のよい場を整えている。玄関ホールや廊下等にソファ・椅子を置き、使いやすい配置となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・玄関など随所に椅子やソファを設置し思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたタンスや思い出の写真を持ち込むなど、個人の思い思いの空間となるよう配慮している。	馴染みのタンスや家族の写真等、思い出の物が持ち込まれており、自宅のような環境で落ち着いている。共同生活の中で個室は最も重要な生活の場で、プライバシー保持や、居心地、安心感などその人らしい馴染みの部屋作りへの支援が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に日巻きカレンダーを掲示し、それぞれ日にちの確認・把握できるよう努めている。		